

会 議 議 事 録（抄）

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第2回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和3年11月26日(金) 18時00分～20時00分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール
参加者	外 部 委 員 :14名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学 内 関 係 者 :4名
配布資料	① 式次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 令和3年度の学校関係者評価結果 ⑤ 令和3年度第2回学校関係者評価委員会 PP 資料
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介(事務局) 専門学校東京テクニカルカレッジ井坂副校長の司会により開会が宣言され、配布資料の確認が行われた。 2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、専門学校東京テクニカルカレッジ白井校長より挨拶が行われた。 3. 委員紹介 井坂副校長より本日の会議予定の説明のあと、資料②に基づいて各委員の紹介が行われた。 4. 議長の選出 本会議の議長については、会則に基づき渡邊委員長(ITBook テクノロジー(株))が選出された。 5. 開催要件の確認 事務局より外部委員 16 名中 14 名出席、委任状提出 1 名、であり、半数以上の参加があることが報告され、本会が成立していることが確認された。 6. 議事 (1)第一号議案:2021(令和3)年度第1回会議議事録の内容についての確認 議長は事務局に対し、資料③に基づき前回議事録の確認を指示。井坂副校長から説明があった。 その後議事録について出席者に確認を図ったところ、全員一致で齟齬がないことが確認された。 (2)第二号議案:前回の意見指摘事項確認とその改善点;本年度に改訂する自己評価報告書への加筆事項確認 議長は事務局に対し、前回四号議案審議内容より指摘事項の改善等についての説明を指示。 井坂副校長が資料④に基づき指摘事項の改善状況と自己評価報告書加筆事項について説明を行った。 その後議長はこれらに対する疑義について出席者に図ったところ、全員一致で自己評価報告書への加筆事項に齟齬がないことが確認された。 (3)第三号議案:2021(令和3)年度事業計画進捗状況報告(白井校長) 1.専門学校を取り巻く状況 ・高校教科・科目の再編成 学力の3要素(判断力、表現力、主体性)を重視 ・大学入試選抜改革 共通テスト導入、選抜時期方法の見直し、質保証 ・高等教育の無償化実施→要件の設定に対応 ・リカレント教育充実(人生100年時代の学びなおし)→教育訓練給付金拡充、産学連携 2.Covid-19 への対応について ・2019 年度 卒業研究・制作発表会中止、海外研修・国内研修中止、卒業式中止 ・2020 年度 入学式、フレッシュマン研修、新入生保護者会 中止 3/26-5/1 教職員時差通勤・在宅勤務実施、学務窓口は業務継続 5/8 ガイダンス開始、5/11 遠隔授業開始、6/1 時差通学による対面授業開始 ・2021 年度 入学式挙行、フレッシュマン研修(日帰り)、新入生保護者会(対面遠隔ハイブリッド)実施 授業は対面とオンラインで実施。実習は対面とせざるを得ない。長野研修中止。 ワクチン職域接種(7/20・21、8/24・25)実施 学生個別の感染は10名ほど発生したが、学内クラスターの発生はなく履修に遅滞なし。 3.今年度の方針に基づく活動状況 ①募集活動に関する報告: 新科の開設もあり来年度入学者目標412名を目指す 見学者減 出願は昨年度、一昨年度より低調(現在135名 2020年度152名)。 コロナでの二年次の進路に対する意識づけの低下が原因→HP、高校訪問など強化 一般入試に加え AO 入試でもネット出願開始。今後ネット出願増加と予想。 簡便な出願方法を提供、大学希望者層の取り込み狙う。 ②教育・就職活動に関する報告: 退学率5%以下目標 11/13 現在退学者は11名(退学率1.7%、昨年度2.8%)目標に収まる見込みではあるが、引き続き教育指導に鋭意努力。

	就職内定率 11/19 現在 90%(昨年度 88%) 未内定の学生に対しては、個別に各部署で連携しながら内定目指して活動を進めて行く。 ディプロマポリシー達成の証明としての内定。優良大手企業内定を多く取得。 ③授業の問題発見・改善手法の開発に関する報告(自己改善できる学校づくり) 授業カルテ、履修判定試験からの問題発見・改善手法開発 2・4 期各教員担当科目 1 科目に関して各自解析したレポート提出。 各自のレポートを共有し問題発見解決の手法を検討 ⇒ 授業カルテ、履修判定試験結果からの授業問題点の検出とその解決法を見出す。(S-P 表分析などチェックバック手法の開発検討) ④学習成果の見える化に関する報告(自己改善できる学校づくり) クラウド上での就職活動展開(キャリアマップ) → e ポートフォリオの充実促進。 コロナの状況によるが、年度末に学習成果展示および報告会実施を計画。 ⑤DX 社会をわくわくさせる学校づくりに関する報告 ・IoT と AI、データサイエンスと AI に関する新学科設立(R4 年開講目指し準備) ・IoT+AI 科:プログラム、デバイス、通信技術→社会の各種問題解決スキル ・データサイエンス+AI 科:ビッグデータ分析・予測→問題解決提案スキル 当初から企業連携でのカリキュラム検討実施(㈱セラク) 企業ニーズ調査→仕上がりレベル設定→ディプロマポリシー→履修科目・カリキュラムフロー → シラバス(わかる目標・できる目標設定) 現在コマシラバス、授業シート・カルテ等作成に取り組み 教育課程編成委員会(㈱Rejoui、㈱ヤフー、WillBooster㈱、㈱ミライト、ITBook テクノロジー㈱)による評価・指摘、修正作業 教員の採用:データサイエンス+AI 科 科長候補 金井氏、IoT+AI 科 科長候補 生方氏 他教員採用中 ・学び満喫 未来化プロジェクト…既存学科イノベーション ・学び満喫 深堀プロジェクト…企業連携探求型教育事業開発、分野横断型技術者教育事業の開発 → 企業ニーズ、トレンドの調査開始 ・学び満喫 発信プロジェクト…企業連携学科横断研究機関「TTC ラボ」開設検討 企業連携学科横断学修環境・ラーニングコモンズ「TTC プラザ」開設検討 → 事例研究・視察の実施「CIC Tokyo」 2 年後テラカフェを中心に企業と学生が仕事を進めて行ける場を作ることを目指す。 ・専門人材未来会議開催に関する報告 カリキュラム構成、学科連携による新しい学校創り目標に各分野・業界の専門の方にお話いただき、専門学校としてどのような学びを準備するか考える機会を創出 2020.09.04 第一回 ①データサイエンスの現在と未来 ②バイオテクノロジーの現在と未来 2020.11.02 第二回 ①IoT の現在と未来 ②環境テクノロジーの現在と未来 2021.01.08 第三回 ①建築技術の現在と未来 ②XR 現在と未来 2021.08.19 第四回 BI ツールの現在と未来-Tableau を操ろう 2022.01.24 第五回 ①通信技術の現在と未来 ②自動運転技術の現在と未来 予定 ⑥リアルジョブプロジェクトに関する報告 ・毎年 2 期から 5 期にかけて各科テーマを設定。年度ごとに達成目指し進めている。 - 建築監督科:(10 階共有スペースのリノベーション、教場のリノベーション、模型教材作成) - 建築科:(校内共用スペース改装計画、教場・授業改善提案、調査研究) - インテリア科:(学生寮モデルルームリノベーション提案(後援会企業より依頼)) - 情報処理科:(IoT&AI システムの開発(Raspberry Pi による検討)) - ゲームプログラミング科:(AR スマートフォンゲーム&アプリ開発)、 - Web 動画クリエイター科:(吉祥寺ハロウィンフェスタオンラインイベント企画、 中野区うさぎ飯カレンダー、RJP ペーパー制作) - バイオテクノロジー科:(植物、標本・模型、環境整備、健康、広報テーマに 14 班に分かれ実施) - 環境テクノロジー科(井戸水の鉄分除去検討、土壌生物分析、水族館水質管理、メンテ不要水槽) ⑦高等教育機関負担軽減策に関する報告 ・修学支援新制度(2020 年 4 月から開始) 現在 59 名に支援実施。(昨年度 44 名) - 授業料等の減免と給付型奨学金拡充とのセット、 世帯収入基準と学習意欲確認による支援(ただし採用後も家計状況、学業成績の確認を実施) - 第一区分(満額)34 名、第二区分(2/3)15 名、第三区分(1/3)10 名 合計 59 名(9.4%) ・リカレント教育の充実 ・教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の継続: 2 年以上雇用保険支を払っていた入学者→最大 57 万円支給。 ・専門人材育成訓練制度受け入れ継続:職業実践専門課程の中に公共職業訓練枠を設ける。 現在バイオテクノロジー科 5 名、環境テクノロジー科 5 名、Web 動画クリエイター科 3 名受け入れ。今後 Web は 8 名に拡充していきたい。 ・文部科学省へ「リカレント教育の取り組み動画」を提供。文科省 YouTube チャンネルで公開。 ⑧その他、学習成果等に関する報告 ・建築科(2020 年度)4 年前より大和ハウスの高卒社員を学生として受け入れ。 大和ハウス 1 期生(2019 卒):2 級建築士学科試験合格率 71.4%(5/7)
--	--

大和ハウス 2 期生(2020 卒):同 75.0%(6/8)

- ・インテリア科(2020～2021 年度) IC 学科試験合格 19.3%(6/31)、IC 最終合格 9.6%(3/31)
- ・Web 動画クリエイター科(2020 年度) Web デザイナー検定合格 95%→CG-ARTS 賞受賞
その他各種コンテスト 知覧茶のポスターコンテスト大賞と入賞。
- ・文科省など政府広報関連番組への出演や動画提供、原稿提供など。(知る専コラム他)
- ・専門学校と高等学校の有機的連携プログラム開発・実証事業 受託
高校からの 5 年間の授業モデルづくり

(4) 第四号議案:審議(取り組みに関する意見交換)

議長は学校の取り組み全般に対する各委員の忌憚のない意見交換を促した。

また井坂副校長より審議の主旨について再度説明があり、テーマにこだわらず自由に発言をいただきたい旨のお願いがあった。以下に各委員の発言概要を示した。

安藤委員(株miwa;建築科卒業生): 今回はいつもの以上に内容が多岐にわたっている印象。

専門人材未来会議は一方的な講演会のイメージがある。聞いている方々がそれぞれ将来の可能性を見出せると思うので、その部分を共有できるような場になると良いと思う。

RJP は第一弾でテラカフェがあったが、第二弾はネタ切れかなと。少し活動が弱くなっている印象を受ける各科のつながりや対社会というところがもっと強かったように思う。例えばリノベーションであれば外部から職人さんを雇って金額交渉するなど、リアルジョブであるならもっときびしい必要があるかと思う。高校との連携プログラムは非常に良いと思う。期待している。自分の経験では中学校では将来についていろいろ揺れていたが、その後数年の間に絞れていった。高校～専門と一本筋を通すというよりも、5年間自由に泳ぎ回って過ごす中で、自分のやりたいことがみつけれられる。そのような形になるとよいと思う。

白井校長:

未来会議に関しては確かにディスカッションができるようになるのは良い。聞いているだけではなくそこから何かが出てくるような形になるとよいと思う。

RJP に関しては、外部とのつながりに関しては確かにそのような部分もあるかと。ただ個別にはインテリア科では学生寮など実際のリノベーションの仕事を依頼されている。Web 動画クリエイター科も NPO 法人からの依頼を受けてイベントなどの支援をしている。すべての学科でそのような展開ができているわけではないが、連携を強め具体化していきたい。

高校との連携プログラムについては必要性を強く感じている。知る専コラムでも述べているが、職業のことを考えずに高校、大学と進んでしまっている。学校と社会が隔たっている。泳ぎ回れる二年間、三年間本当に同感です。

ここ 3 ヶ月で高校を 15 校ほど回っているが、工業高校の校長先生との話の中で、高校には実務家教員がいないということが分かった。建築科で建築の仕事をしたことがない教員が教えている。

ここに我々が行くことは非常に意義がある。SSH の学校ともつながりを作りつつあり、とにかく高校生に実務家教員のリアリティを示せるように進めていきたい。

澤坂委員(株アルチザン代表;ゲーム PG 科卒業生):

前回の会議から 3～4 か月間過ぎたが全体として大きな変化はなかったかと思う。

データサイエンスと IoT 科については企業連携がとれているようで安心した。就職先は問題ないということと、新しい教員の方も採用されて安心感を持った。楽しみにしている。

白井校長:協力いただいている方達は卒業生が出たら採用したいと言ってきているが、これからがいよいよ本番。二年後どこまで育てたか、良いところに就職するなど結果を残していきたい。

藤沼委員(NEC ソリューションイノベーター(株);バイオ科卒業生):

DX 社会をわくわくさせる学校の実現は、他科の学生とのコミュニケーションとカリキュラムの二つがポイントなのかなと思う。これらをどのように融合させていくか。前者は TTC ラボが枠組みとして機能するのを願う。後者のカリキュラムについてはこれから IT のカリキュラムができ、他との連携をどのように機能させていくかが課題かと思う。非常に大きな問題であるし、やる価値はあると思う。期待している。

白井校長:他科とのコラボレーションは積極的に進めていきたい。カリキュラムの融合については、簡単には 2 + 2 があるが、それで良いのか。よく考えて落とし込む必要がある。企業調査も含め、マーケットについても見ながら来年以降しっかりと考えていきたい。

三浦委員(建築科保護者(インテリア科卒業生)):

自己評価できる学校と思っている。カルテ、履修報告などが送られてくるので、明確に状況が分かる。保護者としてありがたい。

長田委員(ゲーム科保護者):

先輩と組んで課題をやっていることで子供はずいぶん成長したと感じる。非常に良い経験をさせてもらっている。履修報告は様子が分かって良い。

白井校長:学校はインプットだけではなくアウトプットさせることが必要、覚えても使えないと駄目である。ゲーム科ですごくタフな授業を受けていると思うが、それを通して成長していただければと思う。

多田隈委員(バイオ科保護者):

RJP は先輩と組むのは少しきついと子供から聞いているが、手ごたえを感じているようである。

学校についての話の中では、学生の立場からは、

・6F の食堂について学生が増えている中で利用しづらいので対策をしてほしい。

・wifi が座席によってつながりにくいので改善してほしい。

・後ろにいと黒板が見えにくいので、モニターなどを利用して見やすくしてほしい。

・非常勤講師への質問がしにくいので対応を考慮してほしい。

とのこと。

e ポートフォリオは親も自宅から見れたら良いと思う。

白井校長:6F 学生ホール、1F カフェともにコロナの関係で密度を低くしている。今後対応検討したい。

ネット環境引き続き改善に努めたい。また教員に対する質問などしやすい環境にしていきたい。

中山委員(有限会社イブシロン、東京商工会議所):

情報、Web の立場として、新設学科の具体的内容を確認した。新しい分野であり可能性の塊である。

今後どのようにして行くのが楽しみである。

教学マネジメント、PDCA のサイクル様式、S-P 表分析など、これらは教育そのものの現場のツールだが、これ自体をデータとして AI に分析をかけると、また違う結果が出てきたり、新しい分析方法が出てきたりするのではないかと思う。

AI も DX も今までの業務フローの効率化、改善に適した方法である。ただ効率化を重んじすぎることでは何かを、例えば人間関係などを捨ててしまっていると言われている。

対人スキル、コミュニケーションスキルについても落とさないようにしてほしい。

白井校長:AI はこれからまだ進化するでしょうからもっと変えていかなんといけないと考えている。

三浦委員からも AI と連動しないのか・とのご意見をいただいているがもう少し先かなと。

DX を進めることで捨て去る部分を検証していかなければならないと思っている。

佐々委員(NPO 暮らしとバイオプラザ 21):皆さん働き者で本当に感動するばかり。

まずコロナの感染についての報告をされていることが良い。他ではあまりこのようなことは出したがらない。

皆でリスクマネジメントすることは必要でこのように文字にして出しているのは素晴らしい。

次に、シラバス・教学マネジメントも素晴らしい。

この学校は IT 系、建築系、バイオ系などがあって小宇宙になっている。そして規模感が良い。

総合大学も複数の学部を持つ大きいところがあるが、キャンパスが離れている。

ここはいろいろな学生、教員が様々な視点をもってすぐそばにいる。

RJP ではこの小宇宙の良さを生かしてほしい。

授業の向上も難しいということであったが、例えば研究公開授業などを行って、他科の多くの先生の手で授業を見直す。

高校との連携については、はじめ高専(高等専門学校)をイメージした。その場合は初めから学ぶコースが生物系とか化学系とか工芸とか決まっている。でも普通高校から上がってくるのであれば、小宇宙の中で自由に泳ぎながら選んで行ける。高等専門学校とは違った「限定しない」ということで面白いものができると思う。高等専門学校から大学に学士入学して博士を取る方が増えた。同様にここで学んでさらにその先に進む。もっと自由な人が生まれる。卒業後さらに大学に行ったり、新しい道が開ける可能性がある。素敵な小宇宙感を大いに活用してほしい。

白井校長:感染に関しては各機関に届出しておりますので、それをそのまま出ただけです。

教学マネジメントも 20 年の積み重ねがあり、先生方に残業をさせていることはないのでも心配はないかと。「素敵な小宇宙」来年の入学案内にしたい言葉。高専連携も「泳げる 3 年間」、悩んで職業を決めていく時間があっていい。とくに十代にその時間があってよいと思う。

専門高校だけではなく普通科の高校も改革を迫られている、多くの高校からアプローチを受けている。

島田委員(エーピージーエムデザインアトリエ、法政大学大学院デザイン工学研究科、インテリア科講師):

カルテについてだが、担当科目である設計実習などでカルテと作品がリンクしない。作品の評価を学生の評価に生かしたい。評価のウェイトをあげたい。新しい評価方式ができると良いのではないかと思う。

TTC ラボは興味ある。メディアセンターを新しくして、企業と連携しようというのは良い。

視察した CIC 東京を設計した事務所のコンセプトは、人間は隠れた場所やすみっこを好み、路地裏では多くのコミュニケーションが生まれる。イノベーションが起こる。

この学校にも階段横にスペースがあり、ちょっとした隅で学生が話していたりしている。

ここに各学科毎に新しい仕掛けを作る。エレベーターホールなど、ちょっとしたところで新しい動きができるのでは。実際インテリア科の廊下に学生の作った椅子とテーブルがあるが、学生たちが楽しそうに使っている。教室以外の新しいスペースが重要になってくるのではないか。

RJP だが、全科で共通でなくてもよい。いくつかの近い分野で協力してやっていくのも良いかと。

大学で同じ建物に建築の似たような系統の学科が入っているのだが連携しておらず、一緒にいる意味がないと感じている。ここは今後重要になってくる分野の学科が集まっている。その連携が RJP や未来会議から発展していくとおもしろいと思う。

白井校長:カルテ活用については実習の評価が難しい。教学マネジメントの問題発見が落ち着いたのち、個人的には実習をどう評価するかに取り組みたいと考えている。評価欄を直していただいてもよいかと。

TTC ラボ・プラザも良いが、隙間を作ることが良いとのこと確かにそう感じる。

学科横断に関しても重要であるので、素敵な小宇宙になるようにしていきたい。

杉岡委員(㈱ユニバーサル・サポート・システムズ、キャリアマップ運営)：

学生が自分自身のポートフォリオが良いか悪いかがわからないと、作成に取り組む意欲が低下する…それは実感している。キャリアマップの中で東京では御校が、大阪では辻調グループさんが学生のポートフォリオの登録をけん引してくれており、感謝している。

実は企業側からもっとコメントがつかと想定していたが、企業側からは逆にどのようにコメントすれば良いのかわからない…という意見が上がってきている。この辺りの改善という点から、もっと学生の登録が増えることで多くの企業からアドバイスや要望がでて、改善して行けると思う。より使いやすくなるように取り組んでいきたい。

大和ハウスさんとの取り組みは良いかと思う。高卒で企業に入って月に数回出勤もしているとのことであるが、このような人たちが同級生に在るという環境は他の学生さんにとって刺激になるのではと思う。

一方これがマイナスに働くことはないか少し懸念は持った。

コロナ禍もあり、弊社では東京のオフィスを閉めた。技術者はすべてテレワークで対応しているが、月に数回は集まりたいとの意見もある。新たな TTC ラボの中に企業ブースとして利用できる場があったらうれしい。

白井校長：

作ったポートフォリオを企業の方が評価してくれることが、やはり学生にとって励みになる。オファーが無くてもいいねボタンがあることでも良い。キャリアマッププラットフォームの改善をお願いしたい。

大和ハウスの学生はグループで固まらず、クラスに散っていて影響を与えている。とても刺激になっている。

建築科の授業は引き締まってきた。非常に良くなっている。彼らの出勤は一週間に一日夕刻現状報告する形であり、授業には影響していない。大和ハウスさんからは、二級建築士を取らせてほしいと言われている。学生らしい時間を過ごさせてほしい、ヨーロッパ研修にも参加させてほしいと言われている。

二階のテナント第一号ということで、ぜひお声がけしたい。(株)セラクさんと新しい学科を作っているが、かれらのサテライトオフィスを二階にとイメージしている。

単なるラーニングコモンズではなく、学生の入ったインキュベーションというイメージに向けて検討している。

松本委員(㈱進研アド)：

イベントが中止となり学生がかわいそうであるという話があり、私も同感である。

特に 2 年生はコロナ禍で十分に学べなかったという気持ちを持っているのではないと思う。

ぜひ先生方に学生の方に自身をつけて社会に送り出してあげてほしい。

白井校長：学生たちの背中を押してあげたい。良いアイデアがあったら教えてほしい。

三浦委員(㈱リクルート)：

退学者について差し支えない範囲で良いのでその理由が知りたい。

あと教学マネジメント、成果の見える化についてだが、大阪の重里さんのところ(分析化学専門学校)が人間教育を含めたアウトカム作成に着手した。学びの 2 年間を動画で公開するとのこと、まだ三本くらいだが参考にしたらどうか。

AI、IT 科ですが就職先が問題かと思う。先行してこの系統の学科を作った他校の話によると、入ってくる学生のレベルがあまりにも違うとのこと。玉石混交の学生が 100 名単位で入ってきてしまっており、就職先をどこにどう導いていけばいいのか悩んでいるとのこと。

これから募集ということでしたので、この辺はどのようにお考えか。

小川事務長：今年は特異かもしれないが、退学者のほとんど(9 割程度)が学習意欲の喪失が理由である。

経済的な理由ではない。学費の滞納は 0。尚休学も増えているが同じ理由であり、いったん休んで自分見つめなおしたいということだと。

白井校長：重里さんの件は知っている。面白い取り組みと思う。当校は別の形で取り組めればと思う。

IT 関係の入学者のレベル差は予想されるところである。可能な限りフォローアップしていくように考えているが、特に入学前のフォローが必要かと考えている。

またスタジオアワーやスタディアワーといった復習の時間を取っているの、そこをうまく使いながら数学の予習復習をするとか考えている。

勉強に不慣れな学生にも対応できるような環境を整えていきたい。

吉田委員(㈱ビーアライブ)：

入学者数が減っているが、学科によって差があるのか。分析が知りたい。どのように対応するのか。

この学校の特徴として「わくわく」というキーワードと「学科間の交流」が大きい。その中でも IT の学科があるのが大きい強み。これを生かすと良い。どこの学科であってもデータを扱う。活用することが必ず出てくる。

プログラムを使うことが必ず出てくると思うので、プログラミング的な思考が必要。

そこで RJP の中で IT の学科と何かをおこなう。IT の活用を体感できる時間を作れると、その先の学びにつながると思う。

白井校長：入学者数は全体に減っている。特にどこか…ということではない。対策としては、大学志願者対策や高専接続にも取り組んでいるので、その関係で各高校を回って先生方に直接宣伝している。web でも広がるように努力している。

IT を生かすことは確かに重要。プログラミング思考などうまく他分野の人にも伝わるようになると良いかと思う。建築などでも BIM など時代も変わり動いてきているので、その中にどう入れていくか、カリキュラムとしても考えていきたい。

	渡邊議長(ITbook テクノロジー株):議長) RJP はリアルジョブということであるから、なんとなく仕事に着目していると思うが、実際の仕事は「誰のために」行うのかということになる。実は情報処理は最終的なユーザーがいらない。例えば経理のソフトはそれを使う人は単に処理して結果を出しているだけ。その結果を最終的に使う人は分かっていない。特に情報処理の技術系はそうかとも思う。 誰のために・・・というものが見えにくい。自分たちの作ったものがどのようなお客さんに使われて、お客さんはどのような体験をするのか・・・が見えない。今はまだこの辺を考えなくても良いが、今後はそれがわかることが当たり前になる。それが出来るかできないかでエンジニアとしての差が出てくる。 情報処理科の学生さんにRJP の中でいろいろな科と連携させることが、自分たちが作ったプログラムが人にどのような幸せを与えるのか、喜びを与えるのかを学ぶチャンスになるのではないかと思う。 素敵な小宇宙の中で・・・その辺に期待したい。 井坂副校長:今授業の中で固定されたユーザーはいないが、学生たちが自分でそのソフトを利用したときにどのようなところにも不自由を感じるか。そこを考えて作るように指導はしている。 ただその結果が出るのが二年生の最後といったところで、タイミング的に他科に落とし込むのは難しい。 永遠の課題となってしまうのかなと。 渡邊議長:結果が出なくてもよいのではないかと思う。そういうことがあるのだということを知っているか、いないかが大きな差となる。社会人になると業務上の課題を一人で解決できることはほとんどない。だれに何を頼めば解決できるのかということになる。そのようなことがあるということをどこかで経験させると良い、ということです。 白井校長:皆さん貴重なご意見ありがとうございました。取りまとめて、やれるところからやっていきたい。 素敵な小宇宙を目指して頑張っていきたい。 渡邊議長:学校関係者として評価したいと思います。教育的視点からの改善アプローチであると思います。 テクニカルカレッジらしい改善の取り組みと感じますがいかがでしょうか。(全員賛同) 今年度の取り組みを適切な取り組みであると評価します。 今後も活動の改善努力や進捗状況について、また取り組み内容について公開をお願いしたいと思います。 井坂副校長:渡邊委員長スムーズな議事進行ありがとうございました。 貴重なご意見ありがとうございました。これをもちまして会議は終了となります。 今年度の卒業研究・卒業制作ならびに RJP 成果発表会につきまして 3 月 8 日(火曜日)午後を予定しております。改めてご案内させていただきます。 今後とも当校の教育にご理解ご協力をお願いいたします。 本日はありがとうございました。 以上
--	--

議事録署名人

印

印